

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202230		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	倉敷市茶屋町1245-3		
自己評価作成日	令和1年6月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka.nsf/aResult?OpenAgent&P=1
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和元年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外部のボランティアによる楽器演奏や日本舞踊の鑑賞、手品などを行い、なかなか外出ができない方への支援を工夫している。 日常では、個々に見合った手作業(手芸・工作・料理)を提供し、楽しみなひと時が持てるように支援している。倉敷市介護相談員派遣事業を活用中。利用者は相談員と馴染みの関係ができ、よくしゃべられている。職員もレク活動等を相談員から評価されることがあり、外部の評価を直接 聞くことで、自信を持つことができている。家族様からもホームの雰囲気明るく、穏やかなので、面会に来やすい、と評価して下さっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で必要とされる役割を担い、地域交流に積極的に取り組んできたことから、週1回の百歳体操の開催が定着している。高齢者から子供まで地域の人達が集うコミュニティー活動の場として隣接施設を開放し、利用者や家族、職員も地域の一員として参加している。地域包括支援センターから、認知症サポーター養成講座の開催・講師として職員の協力等の要請があり、検討されている。管理者は就業環境の整備に努め、運営基準の研修や業務基準の見直しをし、職員の意欲向上に繋げている。ミーティングの機会を多く持ち職員間で話し合い、理念に沿った支援の実践に努めている。職員の努力は家族にも評価されている。家族アンケートの結果からも家族の信頼が見て取れ、利用者・家族の安心が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに困った際には、理念に立ち返ってケア方針を立てている	「明るく・楽しく・温かなケア」を基に、安心して生活できるよう、自分だったらどうして欲しいかを含め、どういう介護であれば良いのかを話し合っている。行き詰まった時には、理念に立ち返り、支援の質を確保する為の目安としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に1回、地域住民の方へ併設施設を開放して、100歳体操やサロンの場として活用してもらっている	働きかけが実を結び、百歳体操が定着し、その後の活動も広がりを見せている。夏休みには子供達も集まり、工作やおやつ作りを楽しんだ。利用者も敬老会やクリスマス会等の行事に参加している。畑の管理のボランティアも継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方への認知症に関する勉強会等の開催はしていないが、個別に電話や来所にて相談があれば応じ、必要があれば支援センターへ連絡・報告をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H30年の豪雨災害以前の会議の際に、自然災害時の対応について、参加者に意見を求めていた。判断をするときに、役に立った。	現状報告を行い、参加者から意見や提案を受けている。身体拘束を取り上げ、言葉遣いや、不適切ケアについて説明し、理解を深めてもらった。インフルエンザの拡散を抑えた初期対応を評価してもらい、他施設にも報告するよう勧めてくれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携があり、地域住民への勉強会開催をされる時には、当事業所の併設施設を活用してもらっている	地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、事業所の実情を理解してくれている。市担当職員とは、書類上での疑問点や不明点を質問し、指導や助言を受け、協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠はしていない。	職員が明確な意識を持って取り組むことができるよう、研修を重ねている。他市の職員研修DVDも活用し意識付けを図っている。インフルエンザ時の隔離についてや、転倒リスク等を話し合い、抑圧のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング開催を行い、不適切ケアと思われる段階で職員と意見交換、虐待防止委員会を開催し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H30年度は成年後見人制度について事業所内での研修の実施が無かった。H29年2月に高齢者の権利擁護についての外部研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけでなく、書面にて説明を行い、同意を得ている。また、できる限り専門用語は、分かりやすい言葉で言い換えて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際に頂いたご意見や要望を申し送りノートで職員へ伝達し、できることから反映させている。	現状理解を図り、家族と職員との行き違いを防ぐ為に、管理者・計画作成者・職員が家族と面談し、方向性を決めている。衣類の洗濯や、排泄用品についての意見や要望があり、職員間で話し合い、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング開催に行っている。また、統括管理者も必ず出席し、法人格からの伝達事項を伝えてもらうことで、組織の中の一員を自覚できるようにしている	ミーティングで業務基準の見直しを行っている。一日の業務の流れが一表に分かりやすく記され、職員間で統一されている。ケア改善ノートや、申し送りノートも活用し、話し合い、改善に繋げている。複数の訴えは改善点であると捉えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本給の引き上げや残業手当の支給。年次有給休暇の取得を推進している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出張扱いにて職員は、外部研修に参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場として、法人内部・外部研修を活用		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを否定せず傾聴を行うことで、関係の構築を図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの種類について分かりやすく説明を行い、サービスを受けることに不安を感じさせないように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居という選択肢以外にも小規模多機能施設の活用、ショートステイ、ケアハウスといったサービスの説明も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、一緒にキッチンに立っているが、味付けや野菜の下ごしらえの仕方など会話しながら行うことで、職員も楽しい気分になる。また、洗濯干し、たたみ等家事を一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時だけでなく、電話にても日々の様子を家族に伝え、また家族の方(親族・身内に)でも変わりごとがないか確認することもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも近所の友人や親せきと面会ができる。また外出もできる	市内在住の家族が多く、面会は多い。家族の協力を得て墓参りや買い物、外食に出かけることもある。近所の人や、親族・友人が訪問してくれることもあり、居室でゆっくりと過ごしてもらい、交流が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性に留意しながらテーブル配置・席配置を考え、穏やかに生活できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転移した先の施設を訪ねたり、家族様へ電話にて近況を教えて頂いたりしている。また、亡くなられた後も、節目ごとにお参りさせてもらっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングを行い、職員1人で決めないようにしている。	本人の気持ちはどうかという視点に立ち、一人一人の要望を聞き取るように努めている。食べたい物や、買いたい物が分かれば、メニューに加えたり、買い物に連れ出したりし、希望に添えるように個別に支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに細かく記載し、新たに分かったことがあれば、追記している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートに細かく記載。変化があれば都度変更		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問・面会の際に、本人の日々の様子を伝え、本人と家族の希望・要望・意見を伺い、施設でのケアについて説明をして計画を作成	更新時の2～3か月前から、家族の意見や要望を聞き取るよう心掛けている。主治医や看護師を交えて話し合う機会も設けている。職員は計画を意識して支援に取り組み、毎日モニタリングチェックシートに記入し、次期作成にも活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づいた介護記録をするように努力し、次のプランに反映できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部病院受診は基本として、家族対応を願っているが、諸事情にてできない場合は、可能な範囲で事業所で対応する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	倉敷市介護相談員派遣事業を活用中。利用者が相談員と月1回、世間話をして良い関係を築かれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療が受けられる	週1回の訪問看護、訪問歯科もある。転倒や急変時も母体クリニックから医師が駆け付け処置してくれる。24時間の医療連携体制が整い、家族や職員の安心を得ている。他科受診は、家族の都合が悪ければ、職員が付き添い情報共有を図る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間相談できる契約を結び、医療機関といつでも連絡・相談できる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約クリニックが、地域医療連携室を活用しているため、円滑な入退院支援ができています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要があれば、主治医と相談の上、家族面談を行っている。	重要事項説明書に理念や、段階を追っての支援内容が詳しく記されており、終末期のケアが具体的に理解できる内容となっている。本人や家族が納得した上での看取り介護の実践に努め、振り返りのカンファレンスで家族から「よかった」と感謝の言葉をもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	H30年度は訓練の実施が無かった。消防署または契約クリニックと相談して次年度は行う予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関してはアクションカードの掲載をしている。今後は水害に対するアクションカードを作成予定	年2回の訓練の内、1回は夜間想定で火災時の避難・消火訓練を行っている。実際に水消火器を使い、利用者や職員が使い方の確認をしている。他に水害時の避難訓練も行い、水位状況を確認しながら、車での早めの避難を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おおむねできているが、今後も不適切にならぬよう注意していく	本人がどうしたいかを一番に考え、気持ちを尊重しながら、言動に注目している。その人らしく暮らし続けることができる様に、自立支援の観点からも、本人ができることを大切に促し、継続できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の会話、理解度の調子に合わせて、聞き取りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように努力している。例えば、編みかけのマフラーが気になる方へのレク参加については、本人に聞いて本人が参加するしないを決定している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や着替えの際には、タンス内から2～3点の服を出し、どれにするか自己決定を促している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にキッチンに立ち、会話を楽しみながら準備・片付けをすることが、毎日ある。	職員の管理栄養士が献立し、バランスの良い家庭料理が提供されている。家族から「カレーが好きなので食べさせて欲しい」等の要望があれば、楽しい食事となる様、メニューを変更して対応している。行事の時は弁当で変化をつけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の記録を行い、利用者1人に合わせて量や食事形態を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回は歯科衛生士の講習会を職員と利用者が一緒に受けて、口腔ケアの大切さを学んでいる。また、口腔状態に変化があれば、協力歯科に往診・相談を依頼し、指示の下、適切なケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月のミーティングにて、1人1人のケアを見直し、必要があればモニタリングを行い、評価している。	一人一人の能力や習慣に合わせて細かく対応し、気持ちの良い排泄に繋がっている。便秘と下痢の周期がある時は、症状に合わせて布パンツ、紙パンツをこまめに変更している。排泄用品の検討を行い、常に見直しをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が適切か、食事量が減っていないか確認しながら、必要に応じて医師の指示を受けてケアしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の配置関係により、時間帯は固定せざるを得ない	日曜日を除く毎日が入浴日となっており、週2回を目安に入浴している。一人一人の時間をゆくりと取り、着替えの衣類選びや、着脱も本人のペースで行っている。できる事は時間がかかっても自分で行ってほしい自立支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調変化や気分の変化に合わせて行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食札を活用し、食札には主な服薬情報を記載している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おおむねできている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を把握しつつも、支援ができていない。外出支援のための十分な職員確保が課題になっている	年2回、春と秋には、全員で外出している。避難訓練後に利用者から「せっかく車に乗ったのだから、どこかに行こう」と声上がり、そのままドライブに出かけたこともある。職員と買い物に出かけることもある。	隣接の空き施設が地域サロンとして活用されており、百歳体操や民謡や踊りの催しも開催されている。交流が楽しみの一つとなっているが、戸外に出かけ気分転換を図る機会も作ってほしい。生活の活性化に繋がる個別の外出支援に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物をする際に、本人が現金を持ち、レジで本人が支払い、品物を受け取るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話にて、連絡を取る方もおられるし、ホームの電話を利用して家族と連絡が取れるよう、支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には、季節の花が植えてある。また、季節を感じられるような、壁画の作品を玄関や廊下の壁に展示している	快適に過ごせるよう清潔保持を心掛け、感染症予防の策も徹底して行うようにしている。手すりやドアノブ、冷蔵庫の開閉部分等は、常に除菌している。利用者の作品が飾っており、自分の居場所としての温かい雰囲気を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、パーテーションや観葉植物等を活用しての、空間の間仕切りができていない。1人での居場所作りができていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持参して過ごされている。TV、手芸用品、筆記用具のようなものについても。中には観葉植物を置かれている方も。	暮らしの場面を撮った写真を貼り、ここでの自分の役割や、存在価値を認識してもらうことに役立っている。趣味の手芸を楽しむ人もいて、多くの材料を持ち込んでいる。一人一人がその人らしく落ち着いて過ごすことができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書籍は取りやすい位置に設置。トイレの場所が分からなくなっても、目の高さに表式してあるので、ホーム内を1周すれば、トイレが分かるようにしている。下足箱の位置も個々の体形や事情に合わせて決めている		